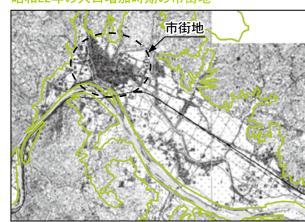
~山と川に囲まれたコンパクトな市街地~

府中市の市街地の成り立ち

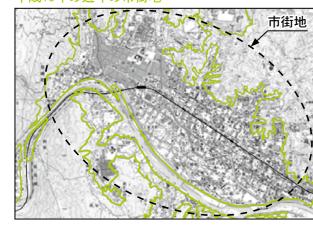
戦前の旧府中市は、人口4万人程度で、現 在の府中町、出口町を中心に人口密度が高く 非常にコンパクトな市街地を形成していまし た。この時には、鵜飼町、高木町などは、一 面に田畑が広がっていました。

昭和22年の人口増加時期の市街地

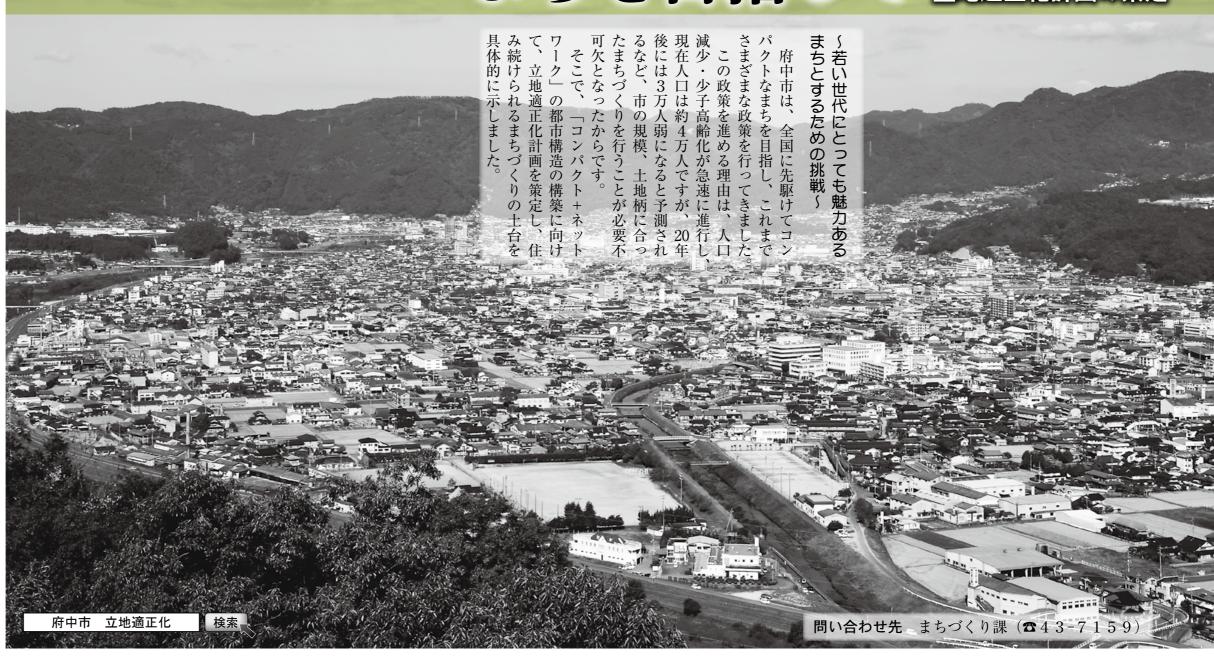


戦後の昭和40年~50年代頃から人口増加に 転じていき、周囲を山と川に囲まれた平地を 中心に新市街地が形成されました。また、短 期間に急速に人の住む面積が拡大し、現在の 住宅、工場、農地が混在する人口密度が低い 非効率な市街地となりました。

平成19年の近年の市街地



住みたい・住み続けたい まちを目指して ^{駅物!} は関連の策定



減少の理由を問れると 地代の大都市圏などへの一 世代の大都市圏などへの一 中市の人口統計でも、転出 による人口減少数が大きな の、将来にわたり府中市で も子どもの数が減少してお をえる若い世代への減少してお あり、誇りに思え、時間化などにより府中市で しやすいまち、また、晩婚化などにより府中市で をくてはなりません。 そのためには、良好な付 そのためには、良好な付 をが提供できるまちにしていか なくてはなりません。 ことが重要であり、このよ うなまちづくりを進めていよっ ことが重要であり、このよ

住み続けたいまちって何?

地適正化計画と